

概要報告

実施期日	7月29日(火) 【午後】
部会名	小学校 道徳部会

テーマ 『命を大切にできる心を育てるために』～昨年度の実践を生かした取り組み～

提案概要

・昨年度、4年生を担当し、命を大切にできる心を育てるため授業を行ったが、命を大切にできる心を十分に育てきれなかったように感じた。その原因として次のことが考えられる。

- ① 子ども達がねらいにせまっていくような発問ができなかった。
- ② 日常生活や他教科と関連させた取組が継続的にできなかった。

今年度も4年生担任になった。生き物とのよりよい関わり方を考えさせることを通して、命を大切にしようとする心情を養うことにした。昨年度の実践を生かし、日常生活や他教科と関連させて命を尊重する心を育てていきたい。

◎実践の概要

○道徳的価値にせまるための工夫

- ・事前にアンケートを行い、児童の実態を把握した。
- ・昨年度と同じ資料を使うことで、実践を生かし、ねらいにせまるための発問を考え、授業の流れを組み立てた。
- ・理科の学習や学校生活のことを話題にし、自分の生活に置きかえて振り返らせるようにした。

○道徳的価値を深めるための工夫

- ・年間を通して命について考えさせる時間を多く設けた。
- ・授業の内容や子どもの発言を学級通信に載せることで、学んだことを子ども同士や家庭とも共有できるようにした。
- ・継続して命を大切にできる心を育てられるようにクラスで生き物を飼うことにした。

◎成果と課題

【成果】

- ・昨年度の実践から得られた課題について工夫改善することにより、ねらいにせまることができ、命を大切にしようとする児童が授業後に多くみられた。
- ・アンケートを使い、子どもたちの考えの変容をみることができ、子どもたちとの今後の関わり方の参考になった。
- ・学級の中で生き物を飼いたいという声があがり、命を大切にしつつ生き物の世話をする姿が見られるようになった。

【課題】

- ・2学期は相手を大切にできるように意識をさせ、継続的に日常生活や他教科との関連をさせていく。
- ・授業で死を取り扱う際、児童の発達段階や実態をよく把握した上で、意図をしっかりと考えておく必要がある。

質疑概要

・メダカ・モツゴを飼うようになった経緯をたずねられ、メダカは保護者に持ちかけたこと、モツゴは他クラスでポンプの中に卵が見つかり、親といっしょにできず「飼ってくれないか」と言われた、との答えがあった。

・「三浦さんは幸せじゃない」という意見はなかったか、葛藤はあったのか。また、「13年間の葛藤」については、なぜ去年は伝えなかったのか。という質問に対しては、「『幸せじゃない』と言った子は皆無だった。ねらいからズレないように、『13年間～』の話を今年度は取り上げた」と答えた。

・「安楽死」について意見は出たのか、という質問に対しては、そういう意見はなかったが「安楽死」を取り上げた他のクラスでは、「安楽死の方が幸せでは？」という意見も出た、とのことだった。

・①魚の世話の分担方法は。②昨年度のクラスの子がアドバイスに来てくれた経緯は。③辻堂小の道徳研究の体制は。という質問に対しては、「①生活班(4人グループ)を利用した。②話したり相談したりするうちに来てくれるようになった。③校内研究体制は道徳・教科研究部・心と身体・読書、の4つに分かれて研究を進めている」と回答があった。

・①「責任」という言葉をどう考えさせたかったのか。②「自分以外の人」が難しい。どのようにつなげよう

と考えているのか。③「死」の扱いは。という質問に対しては、「①「責任」を取り上げるとねらいからズレてしまうかも知れない、と思った。②生き物がまず第一歩だと考えた。それを人（友だち）に移行していきたい。③食育にも関係する。栄養士と連携したり、保健の学習とも関係したりする。問い返しをしながら扱いたい」と答えた。

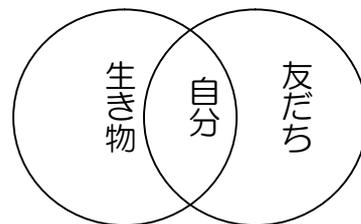
研究協議概要 (7つのグループに分かれ、ワールドカフェスタイルで協議した)

○協議の柱Ⅰ 道徳の授業におけるねらいにせまるような発問について

- ・児童の実態を見つめることが必要。アンケートをまず取り、児童の発達段階を考える。思いつきで言葉にすることは危険。
- ・迷う（ゆさぶる）＝葛藤、が必要。答え（できること）は一つではない。今後の自分に生かすことが大切。発問も大事だが、その後の実行の方が大切では？
- ・教材選びや研究が大切。友だちの話を聞いて自分の考えを深めたり広げたりできる授業や、自分の問題として考えられるような教材が良い。資料の読み取りで終わらないように。
- ・どう思うのか、どう考えるのか、まず本音で話せる雰囲気作りが大切。
- ・高学年になると心に響きにくくなる。低学年からの積み重ねが大切。
- ・モラルジレンマに苦しむ自分がある。悩んでいる自分が子どもに伝えられるのか。

○協議の柱Ⅱ 生命を尊重する心を育てる取り組みについて

- ・佐世保の事件にいろいろ考えさせられる。10年前の事件があり、学校でもいろいろな集会等行なってきたはず。子ども自身がゆっくり考える時間も必要なのでは。「死ね」「殺す」などの軽々しい発言もある。「死」に関する経験が不足している、あるいはバーチャルの世界との区別が曖昧である。身近な「死」を経験して初めてわかるのではないか。家庭との連携（同じ方向を向くこと）が大事。大人の考え方がカギになる。
- ・「生き物を飼う」こと自体が生命尊重と矛盾するのでは。生き物は自然に帰すべきではないのか。
- ・野菜作り・米作りなどを通じて「有難さ」を知ることも大切。
- ・自分の良さに気付き、自分の存在を大切にしていく心が大切。それがクラスの中でお互い認め合うことにつながっていく。
- ・動物園や水族館の楽しさを伝えることもよいのでは。どろんこ遊びなどの経験も必要。
- ・家庭環境により扱えない場合があるが、自分が生まれた時のこと、命名の由来等も授業で扱うと良い。
- ・命に対しての考えは、バランス感覚も必要。にわとりを育てるのなら、食べるまでやるべきなのではないか。生き物の命には序列がある現実をどう捉えるのか。
- ・「生き物→自分以外の人→自分」（提案資料p.9）という順番が疑問。自分が最初ではないか。右の図のような関係ではないか。提案資料の順番は、生命尊重の問題に絞った場合なのかもしれない。
- ・カイコ・ヤモリ等生き物を飼う経験はやはり大切。ヤモリは生餌しか食べないのでやせ細ってしまい、逃がすことにした。
- ・親しみが持てる教材選びも大切。自分のこととして捉えさせたい。
- ・命あるものが「よりよく生きる」ということが難しい。



まとめ概要

- ・アンケートを取り子どもの実態把握をきちんと行なったことがよかった。子どもたちにまだない新しい道徳的な価値を与えられる、実態に合った教材を選んでいた。強い想いに気付かせるため、道徳的価値をより広げるためには、次の点に配慮した発問が必要。①主人公の気持ちに沿う②主人公の行動を考える③感動を大事にし価値を把握する④主人公の行動や考え方を批判させる
- ・良い提案・協議で、自分の授業を振り返る大切な視点を与えられたと思う。子ども一人ひとりを大切にしたい取り組みだった。発問には、大きなウェイトがかかる。まず自分（先生）の方で主題を明確にしておくことが重要。「学習指導要領の解説」p.81の「指導案作成の手順」を参考に、本日のワールドカフェスタイルの経験等も、今後を生かしていきたい。